

2015.4/ No.144

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

濃いっ! 阪大

ジャパニーズ・ウイスキー 編

「光吹-MIBUKI-」開発 編



Contents

03 Topics

サクラ咲く 10年ぶり 掲示板での合格者発表
平成27年度入学式を挙行
平成26年度卒業式・大学院学位記授与式を挙行

14 **濃いっ! 阪大1** — ジャパニーズ・ウイスキー編 —

ジャパニーズ・ウイスキーの
レジェンド 3/4

20 Topics

大阪大学オリジナルウイスキー完成記念イベントを開催

24 **濃いっ! 阪大2** — 「光吹-MIBUKI-」開発編 —

「大阪大学オリジナルウイスキー
光吹-MIBUKI-」誕生。

28 役員室だより

35 人事／訃報

38 表彰・受賞等

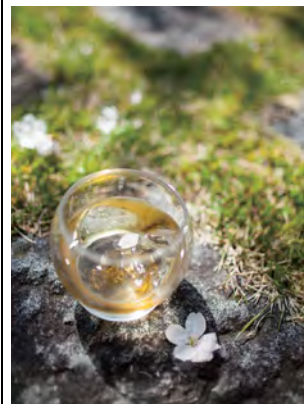
39 教職員インタビュー

40 阪大の組織 AtoZ「グローバルアドミッションズオフィス」

42 阪大ほっとニュース

44 阪大百景

45 Information



【表紙写真】
「大阪大学オリジナルウイスキー
光吹-MIBUKI-」と桜
表紙写真撮影
クリエイティブユニット

Topics



新入生・フレッシュマンの皆さん、
新しく大阪大学の門をくぐられた全員の方を
心から歓迎いたします。

10年ぶり 掲示板での合格者発表

3月9日(月)、3月22日(日)、
 大阪大学入学者選抜試験の合格者
 (前期日程2,994名、後期日程396名)を発表しました。
 今年の合格者発表は、ホームページと掲示の両方で行われました。
 平成17年度入試以来10年ぶりの掲示による発表で、
 キャンパスには多くの受験生が集まり、
 合格の瞬間を生で体感しました。

バンザイ!



ヤッター!



オメデトー!



平成27年度入学式 総長告辞 <要旨>

「歴史的大変革期を生きる」

大阪大学に入学ならびに進学されました皆さん、おめでとうございます。また、ご臨席いただきましたご家族の皆さま、関係者の方々に心よりお祝い申し上げます。あらゆる可能性を秘めた前途洋々たる皆さんは、本日、大阪大学の一員として、あらたな人生を踏み出すその第一歩を迎えられました。大阪大学総長としてこの上もない喜びであり、大阪大学は心から皆さんを歓迎いたします。

皆さんは、今の大変革期を生きるにあたり、日本は勿論もっと広く世界に目を向け、「社会の変化に対応する」力を身につけなければなりません。では、現代の社会が求める人材、その能力とはどのようなものでしょうか？例えば、決断力、行動力、そして言語運用能力を含むコミュニケーション能力。これらは、しばしば優れたリーダーの素質として語られます。確かにこれらの能力を身につける必要はあります。しかし、急速に変化し続ける現代社会においては、これらの汎用的能力だけでは十分ではありません。これからの社会が求める人材とは、多元的な課題に潜む物事の本質を見極め、従来からの常識や考え方を超えた課題解決を先導できる人材であると私は考えます。「物事の本質を見極める力」とは、現象として認知可能な事象の奥に潜む、その事象の力ギとなるもの、そしてその仕組みを見極める力を意味しています。「一芸に秀でた者は総ての道に通じる」とい

う言葉があります。この力の基盤となるのは、特定の分野をとことんまで究めた高度な専門性です。大学が最先端の研究を行い、それに基づく高度な専門教育を行う意義はここにあるのです。

また、物事の見方の転換も重要かもしれません。例えば、科学技術の力で自然を征服するという発想ではなく、如何にすれば人類は自然と共生できるかを真剣に考える必要があります。また老・病・死など人間が避けて通れない問題も、今までは生命科学や医学の発展により克服するという姿勢で研究が行われてきました。しかし、そのような発想を転換し、どのようにすれば人類はこれらの問題と共生し心安らかな人生を全うできるかを、見つめなおす必要もあるでしょう。このように、荘子の胡蝶の夢の例のように、物事を見る時、一面から見るのではなく、複眼的に様々な観点から見る必要があります。さらに、物事の全体像を捉える「俯瞰的視点」も重要です。「木を見て森を見ず」という言葉が示すように、一本の木にとって都合の良いことが、必ずしも森全体にとって最善の策とは限りません。短期的にはその木にとって最善の策であっても長期的に森全体にとって悪影響があれば、結局はその木にとって致命的な問題となるのです。

これらの視点を養うのは幅広い教養教育です。教養教育は、単に知識の蓄積ではなく、広く柔軟な視点の

※全文は大阪大学ホームページに掲載しています。



獲得に繋がるものとして重要です。さらに、グローバル社会においては、人類の活動のフィールドはますます拡大していき、異なる言語、文化、民族、宗教、国の相手との関係構築、そして協働が必要となります。そのような状況に適切に対応するためには、孔子の言葉である、相手の心や立場を鑑みて物事を判断する「恕」の心、即ち「寛容の心」と、他者の異なる文化や考え方を理解・尊重する「共生の心」を育むことが重要です。そして、この前提として忘れてはならないのは、「己を知る」ことです。多様性を持つ人類が共存共栄していくためには、まず自己を知り、自国の文化を理解し、かつ尊重することが必要です。自分自身を、自国を愛することが出来なくて、それらを誇りに思うことができなくて、どうして他

人や他国を理解し尊重することが出来るでしょうか？

皆さんは、大阪大学で思う存分学んで欲しいと思います。さらに積極的に自ら問題意識をもって回答を求める努力をして欲しいと思います。また世界に目を向けて欲しいと思います。積極的に海外に出かけて様々な国の人と交流して欲しいと思います。大阪大学には様々なプログラムや機会があります。是非ともこれらを積極的に有効活用して歴史的大変革期を生きてください。

平成27年4月2日

大阪大学総長



新入生のみなさん、 ようこそ大阪大学へ。

4月2日（木）、大阪城ホールで平成27年度大阪大学入学式を挙行し、新たに6,415名（学部3,489名、大学院2,926名）が入学、進学しました。



平成26年度卒業式・学位記授与式 総長式辞 <要旨>

「多様性爆発の世紀に生きる」



本日、大阪大学から新たな一步を踏み出さんとされている学部卒業生の皆さん、大学院修士・博士課程修了生の皆さん、そして専門職博士課程修了生の皆さん、ご卒業、修了おめでとうございます。卒業式・学位記授与式にあたり、これまで大阪大学で学び、努力と研鑽を積み重ねられた皆さんに対して、大阪大学総長として心からお祝いし、讃えたいと思います。

多様性による発展と対立の歴史

最初に、皆さんがこれから活躍する社会はどのような状況にあるのか話をしたいと思います。今、私たちは「多様性の爆発の世紀」にいるのではないかと思います。

20万年位前にアフリカを起源としてホモ・サピエンスが誕生して以来、人類は数万年の歳月をかけてユーラシア（アジア、ヨーロッパ）、オーストラリア、アメリカ大陸へと移動、拡散して行き、この間にコイサン、コーカサイド、モンゴロイド、アボリジニの4つの人種が生まれて今日に至っています。そして、1万年から数千年前にメソポタミア文明、エジプト文明、インダス文明、中国文明、マヤ文明等の様々な文明が各地に開花しました。これらの文明は地理的な関係に依存して緩やかな関係を保つこともありましたが、それぞれが独自に生まれ、周辺地域を巻き込みながらお互いが影響し合い変貌をとげていきました。その過程でユダヤ教、キリスト教、

イスラム教、仏教やヒンズー教など様々な宗教が生まれるとともに、言語や文化などの多様性が生まれて来ました。4つの人種はさらに細分化され様々な諸民族が今、地球上には暮らしています。これらの様々な多様性を有する人類は長い歴史の中でお互いが影響し合い、かつ対立を引き起こし、時には戦争すら引き起こして来ました。このような多様性の対立は単に従属や支配関係のみに終わることなく、時として火薬のような武器等の科学技術の発展も誘導して来ました。また多様性が交わることで人類社会に様々な革新的な変革がもたらされました。さらに多様性は人類社会に心の豊かさをもたらしました。このように人類の長い歴史は多様性がもたらす発展と多様性ゆえに生じる対立や戦争の歴史であったと言えるのではないかと思います。

21世紀は多様性爆発の世紀

では、21世紀のグローバル社会においてはなにが起こるのか、この点をよくよく考える必要があります。移動手段や情報伝達手段の発展に加えて、急激に進む人口の増加があります。永らく数億人であった世界の人口が、19世紀に10億人を突破し、その後急激に増加し、現在70億人、そして2050年には90億人を超えると推定されています。このように、移動手段や情報伝達手段のみならず、人口増加の観点からも地球は飛躍的に狭くなりつつあります。長らく比較的広大な地球に存在していた多様性は今、第5のグローバル化の波の中で、

人口増加も加わり狭い時間空間に凝縮されようとしています。多様性の凝縮の問題に加えて、急激な人口の増加や技術革新は食料問題、エネルギーや環境問題、さらには感染症問題や生物多様性の危機など、様々な要因が複雑に絡んだ地球規模の深刻な問題を投げかけています。まさに人類の歴史は多様性による発展と対立の歴史であると言われるゆえんです。人類歴史の中で過去に例をみない次元でグローバル化が進む現在の国際社会では、狭い時間空間に凝縮された多様性がもたらす負の側面が飛躍的に強くなり、様々な対立や紛争が世界に蔓延しつつあると思います。21世紀は「多様性の爆発の世紀」になる可能性すらあります。温度が連続的に変化し、ある時点で個体から液体へ、さらに気体へと全く異なる次元へと非連続的に物質が変化する、そのような大きな変革期を人類は迎えているのではないかと思います。21世紀のグローバル社会においては多様性を維持しながら、多様性が生み出す障壁を乗り越えることが人類の生存にとり不可欠だと思います。皆さんが学んだ大阪大学は学問の府です。大学は「調和ある多様性の創造」により、グローバル社会に大きく貢献しなければなりません。

平成27年3月25日

大阪大学総長



※全文は大阪大学ホームページに掲載しています。

学部生 3,314 名、大学院生 2,665 名が 大阪大学を卒業・修了

3月25日(水)、大阪城ホールで平成26年度卒業式・学位記授与式を挙行了しました。
卒業・修了おめでとうございます。



ジャパニーズ・ウイスキーの レジェンド 3/4

今や世界五大ウイスキーに名を連ね、
近年の世界的コンペティションで上位を席卷するジャパニーズ・ウイスキー。
2012年にウイスキーマガジン社が発表した
「世界のウイスキー、100人のレジェンド」には、日本人4人が選出されました。
サントリーを創業した鳥井信治郎(1879-1962)とその後継者・佐治敬三(1919-99)、
ニッカウヰスキーを創業した竹鶴政孝(1894-1979)、
「マルスウイスキー」を生んだ岩井喜一郎(1883-1966)。
岩井と竹鶴は大阪高等工業学校(阪大工学部の前身)醸造科卒、
佐治は大阪帝国大学理学部卒と、4人中3人が阪大出身者であることは
本誌前号『「マッサン」と大阪大学』で説明しました。
この事実から、日本のウイスキーの歴史において
阪大が重要な位置を占めることが諒解されるでしょう。
前号の主題は醸造科にあったために触れられなかった
鳥井と佐治の功績を、今回は紹介します。

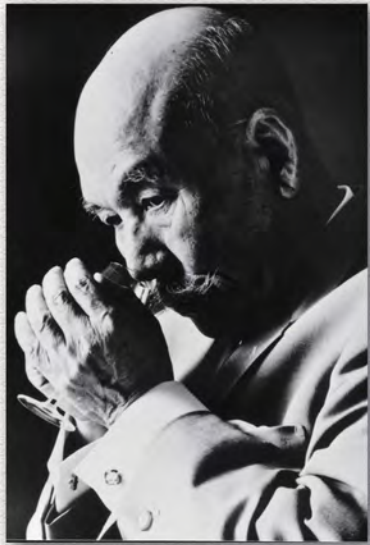
適塾記念センター准教授
松永 和浩



Torii Shinjiro



Saji Keizo



Taketsuru Masataka



Iwai Kiichiro



山崎蒸溜所初代ポットスチルと鳥井・佐治銅像(左)、小竹無二雄揮毫「本邦ウイスキー発祥之地」碑(右) 撮影・松永



「白札」新聞広告(昭和7年)。博物館叢書8より転載



佐治敬三の学生時代(イラスト・柳原良平)。
廣澤昌『新しきこと面白きこと サントリー・佐治敬三伝』
(文藝春秋、2006年、p21) より

1 鳥井信治郎

— やってみなはれ —

民間の経営者であった鳥井は阪大に所属した過去はありませんが、その関係は決して浅くありません。また他のレジェンドの役割を明確化するためにも、触れておくべき人物です。

鳥井は明治12年(1879)、大阪市東区(現・中央区)釣鐘町の両替商(のち米穀商)の次男に生まれました。大阪商業学校(現・大阪市立大学)に通った後、道修町の薬種問屋・小西儀助商店(「コニシボン」で知られる現・コニシ)で丁稚奉公を始めます。この商店では輸入洋酒も取り扱っており、混成洋酒の調合技術を学んで、後年ブレンダーとなる素養を身につけました。明治32年に独立して鳥井商店(後の寿屋・サントリー)を開き、スペイン産のワインをベースとした混成ワイン「赤玉ポートワイン」を開発・販売しました。日本初のヌードポスター等、片岡敏郎を擁する広告部の斬新な宣伝も手伝って、大

正年間を中心に「赤玉ポートワイン」は大ヒットします。鳥井はその利益を元手に、大麦を原料とする本格的なモルト・ウイスキー事業に乗り出すことを決意しました。

それまで日本で製造されたウイスキーは、アルコールに香料・甘味料を加えたイミテーションでした。本格ウイスキー事業の実現には、幾重もの壁が立ちはだかっていました。まず舶来崇拜・西洋至上主義の風潮のなかで、国産品が売れる見込みが立たなかったこと。次にイギリスの法律では最低3年の熟成が義務づけられているように、長期間の熟成が必要であったこと。年数の異なる原酒を混和して製品化するため、最低でも5年はかかり、それまで資金の回収ができないこと。当時の税制は日本酒を基準とした造石税(製造した年に製造量に対して課税)であったため、貯蔵中は年3%ほどの欠減(これを「エンジェル・シェア(天使の分け前)」と呼ぶ)が生じるウイスキーにとって極めて不利であったことでした。

案の定、社内外から反対が巻き起こりますが、それでも鳥井は「赤玉ポートワイン」が好調な今こそがチャンスと、勝負に打って出ます。「やってみなはれ」とは鳥井の口癖

ですが、その一語に集約される進取の気風とチャレンジ精神は、息子の佐治にも引き継がれていきます。

大正12年(1923)、スコットランドで蒸留技術を学んだ竹鶴を初代工場長に迎え、翌年から山崎蒸溜所で原酒の製造を開始しました。昭和4年(1929)には初の国産ウイスキー「サントリー白札」を発売します。なおサントリーの語源については「鳥井さん」との俗説がはびこっていますが、正しくは「赤玉ポートワイン」の「サン(太陽)」と「鳥井」に由来します。広告では国産初の気負いもあってか勇ましい文言を並べ立てましたが、ビート(泥炭)のスモーキーフレーバーが受け入れられず、消費者にはそっぽを向かれてしまいました。同6年には世界恐慌の煽りもあって、原酒の仕込みができない状況にまで追い込まれ、多角経営に活路を求めます。国産初の練り歯磨き粉やインスタント紅茶等を製造・販売してウイスキー事業を守り抜き、原酒の熟成が進んだ昭和12年、ようやく日本人に受け入れられる「角瓶」が誕生しました。

その後は戦中に帝国海軍、戦後に進駐軍の軍納品に指定され、安定した経営が可能となりました。戦後～高

度経済成長期には「洋酒の寿屋」として確固たる地位を築きます。それを牽引していくのが、佐治敬三でした。

2 佐治敬三

— へんこつ なんこつ —

佐治は大正8年(1919)、鳥井の次男として寿屋本社を兼ねる大阪市東区住吉町(現・中央区松屋町)で生まれました。鳥井家は大正12年に雲雀丘(現・川西市寺畑)の新興高級住宅地へ引越し、佐治は箕面有馬電軌(現・阪急)に乗って大阪府池田師範附属小学校(現・大阪教育大学附属池田小学校)、府立浪速高等学校(後の阪大教養部)へ通いました。佐治家に養子に入ったのは浪高尋常科入学を前にした昭和7年(1932)のことですが、これまで通り両親と兄の吉太郎・弟の道夫(後に浪高に進学)と暮らしました。浪高時代は文武両道に優れ、テニス部としてインターハイに出場する一方で、後に東京帝大を主席で卒業し伊丹空港ターミナル

ビルやサントリーホールを設計する建築家・佐野正一(1921-2014)とともに、「浪高に2Sあり」と秀才ぶりを讃えられました。

昭和15年、浪高高等科理科乙類を卒業した佐治は、中之島の大阪帝大理学部に進学します。雲雀丘在住で父と親交があった化学科第二講座(有機化学)の小竹無二雄(1894-1976)に師事しました。佐治は小竹を深く敬愛し、小竹がドイツ留学中に学んだ“エトヴァス・ノイエス(何か新しいことはないか?)”の精神に感化され、常に革新を目指す心構えで後年、企業経営に当たることとなります。卒論のテーマは「人体必須アミノ酸であるトリプトファンの代謝中間体〈キヌレニン〉の構造の決定」で、戦争末期にあって繰り上げ卒業が予定されていたため、通常の3年次ではなく2年次の正月から取り組み始めました。

ついでながら帝大在学中の戦争の影響を語る逸話をもう一つ、佐治の自伝『へんこつ なんこつ』から紹介すると、当時の理学部長であった「八木アンテナ」で知られる八木秀次(1886-1976)は「配属将校からの度重なる理不尽な要求をはねのけて、『大学の使命は研究の遂行と学生の教育にある、それこそが国に報いるゆえんである』と堂々と主張されたという。おかげで軍事教練などにさかれる時間は、最小限にいとめられたときいている」と綴っている。学問の自由・自主性に対する、佐治の理解の深さが窺えます。

昭和17年9月、大阪帝大を繰り上げ卒業となった佐治は海軍省第一海軍燃料廠に配属され、石油に代わる航空燃料として松根油の研究・開発に従事しました。敗戦後は、昭和20年10月に寿屋に正式に入社します。夢は化学者でしたが、鳥井の後継者と目されていた兄・吉太郎が5年前に早世したためでした。

入社後も研究者気分が抜けない佐治は父と度々衝突しましたが、昭和21年に食品化学研究所(現・サントリー生命科学財団)を設立し、理事長に恩師の小竹を迎え、自ら所長に就きました。ただ当面の用地がなく、阪大理学部化学教室の地下室を間借りすることになります。研究

所員には小竹研究室の先輩・広瀬義夫、阪大理学部物理学教授伏見康治教室の助手・金城初子(詩人・牧羊子)がおり、金城は佐治の肝煎りでこの年創刊された家庭向け科学啓蒙雑誌『ホームサイエンス』(1946-47)を担当しました。

昭和24年に専務に就任すると、主力のウイスキー事業で牽引していきます。目指したのは単に商品を売るのではなく、日本人に「洋酒のある生活」を根付かせることで、そのための仕掛けを次々に打ち出します。「トリスウイスキー」の宣伝では「うまい! やすい!」(1950)、「トリスを飲んでハワイへ行こう!」(1961)といった魅力的な文句を掲げ、ハイボールとおつまみを70円均一で提供する「トリスバー」「サントリーバー」を全国チェーン展開し、仕事帰りの一杯やエスプリの効いたPR誌『洋酒天国』(1956-63)を求めてやってくる高度成長期のサラリーマンを惹き付けました。この時流に合った、否、時流を創り出した広報戦略を支えたのが、第二次黄金期を迎えた寿屋宣伝部でした。アートディレクター山崎隆夫・坂根進、コピーライター・『洋酒天国』編集者で小説家でもあった開高健・山口瞳、「アングル・トリス」でお馴染みのイラストレーター柳原良平といった面々が、自由闊達に議論し、持てるセンスとアイデアを存分に発揮しました。佐治はその環境作りにも一役買っていました。

寿屋のウイスキーづくりは、ニッカウイスキーがスコッチを理想としたのに対し、スコッチの亜流ではない独自の「ジャパニーズ・ウイスキー」を追求するものでした。昭和36年にはアメリカで初めて「ジャパニーズ・ウイスキー」としてラベル登録し、「オールド」を販売します。ウイスキーを日本に定着させた後の昭和47年からは、「和食に合うウイスキー」を標榜した「二本箸作戦」を展開し、水割りを浸透させました。



佐治が編集・発行した『ホームサイエンス』。叢書8より転載

その間、昭和36年に社長就任、翌年に鳥井が逝去して名実ともに経営のトップに立ちます。佐治は鳥井が創業した寿屋を継承し、同時に変革を成し遂げた、二代目としては希有な存在といえます。「やってみなはれ」「エトヴァス・ノイエス」精神の下、昭和38年には社名を「サントリー」に改め、寡占市場であるビール事業に挑戦しました。昭和48年には甲斐駒ヶ岳に世界最大の白州蒸溜所を建設し、同55年には「オールド」が単一銘柄のウイスキーでは年間世界最高の販売量を記録します。

社会事業にも積極的で、同年に「生活文化企業」宣言を行うなど、文化・芸術・学術、スポーツ、地域社会へ様々な貢献しました。文化・芸術事業ではサントリー美術館(1961)、サントリーホール(1986)、サントリーミュージアム(1994)を開設し、学術事業では、サントリー生物有機化学研究所(食品化学研究所から改称)が昭和54年に日本初のポストドクター制度を導入するなど、研究助成や研究者養成に取り組みました。本学も、昭和45年にサントリー創立70周年記念事業として醗酵工学科研究棟(サントリー記念館、工学研究科C3棟)の寄贈を受けるなど、多大な恩恵に預かっています。

マスターブレンダーの地位も、社長職とともに引き継ぎましたが、驚くべきことに秘伝やブレンド技術はおろか、レシピすら教えられなかったそうです。つまり佐治はゼロからブレンド技術を学び、自ら磨きをかけ、40種以上の様々なタイプのウイスキーを創造したことになります。この一事のみからしても、レジェンドに値する偉業といえるでしょう。



サントリー記念館(吹田キャンパス)

おわりに

前号から2回にわたって、ジャパニーズ・ウイスキーのレジェンド4人を紹介し、その4分の3は阪大出身者であることを示しました。勘の鋭い読者はきっと、もう一つの“4分の3”にもお気づきのことでしょう。鳥井は寿屋を創業し、その下で竹鶴は山崎蒸溜所初代工場長を務め、佐治が事業を継承しました。つまり岩井を除く4分の3が、サントリー関係者なのです。

本文中でも折に触れて言及してきた通り、サントリーと本学とは深い関係にあります。今年度の超域イノベーション博士課程プログラムにおける学生企画として、サントリーの全面協力の下、「大阪大学オリジナルウイスキー」開発プロジェクトが進められて来ました。3月19日には完成記念イベントが、中之島センター佐治敬三メモリアルホールにて開催されました。第一部では本稿の内容を述べた松永による講演と、サントリーで活躍する多数の工学卒業生の一人で白州蒸溜所初代工場長を務めた嶋谷幸雄氏へのインタビューを行い、第二部ではプロジェクトの概要について、参加した院生による報告がなされました。続いては、完成イベントの模様をお伝えします。

主要参考文献
山口瞳・開高健『やってみなはれ みとくんなはれ』新潮文庫、2003年(初版1969年)
佐治敬三『へんこつ なんこつ』日経ビジネス人文庫、2000年(初版1994年)
『日々新たにーサントリー百年誌』サントリー、1999年
広澤昌『新しいこと 面白きことーサントリー・佐治敬三伝』文藝春秋、2006年
小玉武『洋酒天国とその時代』ちくま文庫、2011年(初版2007年)
小玉武『佐治敬三』ミネルヴァ書房、2012年
松永和浩編著『ものづくり 上方“酒”ばなし』
〈大阪大学総合学術博物館叢書8〉大阪大学出版会、2012年

松永 和浩(まつなが かずひろ)
適塾記念センター准教授。1978年生まれ。2008年大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位修得退学。博士(文学)。10年より大阪大学総合学術博物館。15年4月より現職。専門は日本中世史。大阪周辺の酒史・医薬史にも携わる。主要業績に『ものづくり 上方“酒”ものがたり』(大阪大学出版会、2012年)、『室町期公武関係と南北朝内乱』(吉川弘文館、2013年)、「森野旧薬園文書」翻刻の構想ー他分野研究における歴史資料の活用を目指してー」(『生物工学会誌』92、2014年)がある。





大阪大学オリジナルウイスキー 完成記念イベントを開催

3月19日（木）、大阪大学ウイスキーの完成を記念するイベントが
大阪大学中之島センターで開催され、卒業生ら約200人が参加しました。

本学超域学生の企画による
「大阪大学オリジナルウイスキー『光吹—MIBUKI—』（みぶき）」の
開発プロジェクトは、産学連携による人材育成の取り組みとして、
サントリースピリッツ株式会社のご協力のもと、昨年6月から進められてきました。

この日のイベントでは、ミニレクチャーやトークを通じて、
阪大とジャパニーズウイスキーの「レジェンドたち」との深いかかわりや
開発プロジェクトの経過などを紹介しました。



「光吹」構成原酒	
1 法学部	山崎パンチオン梅モルト原酒
2 経済学部	山崎バーボン梅モルト原酒
3 理学部	山崎古梅モルト原酒
4 医学部	山崎ミュージナール麦芽モルト原酒
5 歯学部	山崎ミズナラ梅モルト原酒
6 薬学部	山崎ヘビリービーチッドモルト原酒
7 外国語学部	白州ライトリービーチッドモルト原酒
8 基礎工学部	白州シェリー梅モルト原酒
9 工学部	知多ヘビータイプグリーン原酒
10 文学部	知多ワイン梅グリーン原酒
11 人間科学部	知多パンチオン梅グリーン原酒



1	2	3
4	6	
5		

1: サントリースピリッツ（株）ウイスキーブランド部の中谷貴昭氏によるテイスティング解説 2: 11種の原酒一覧 3: 嶋谷氏
4: メディアの取材に応じる超域学生の立石和博さん（左・医学系研究科博士後期課程2年）と奥野輔さん（基礎工学研究科博士前期課程1年）
5: 左から嶋谷氏、平野俊夫総長、東島清理事・副学長 6: 会場の様子

ゲストスピーカーの
嶋谷幸雄・元サントリー山崎蒸留所工場長（阪大工学部発酵工学科卒）から、
「ウイスキーでは阪大が掲げる『調和ある多様性』が実現しています」との話がありました。
（嶋谷氏と本学松永准教授との対談の詳細は本誌22ページをご覧ください。）
学生らによるプロジェクト報告では、
「阪大11学部の学生をイメージして厳選された11種の原酒を、
学生数構成比に応じてブレンドした」との秘話も披露されました。
（開発プロジェクトの詳細は本誌24ページをご覧ください。）
完成したてのウイスキーの試飲では、参加者は香りと味のハーモニーを楽しみ、
学生たちが製品に込めた「願い」に思いを馳せました。

「光吹—MIBUKI—」の
イベントレポートや詳細をご覧ください。



「光吹—MIBUKI—」スペシャルサイト
<http://www.osaka-u.ac.jp/sp/mibuki>



聞き手：松永和浩

嶋谷幸雄（しまたに ゆきお）氏プロフィール
1932年堺市生まれ。大阪大学大学院工学研究科醸酵工学科修士課程修了。1956～97年サントリー。その間、山崎研究所所長、白州蒸溜所初代工場長、取締役、山崎蒸溜所工場長を歴任。

嶋谷幸雄さんは長年、ウイスキーの製造現場に立ち会い、レジェンドの岩井喜一郎と竹鶴政孝は先輩であり、鳥井信治郎と佐治敬三は上司という関係にあります。「ジャパニーズ・ウイスキーと大阪大学」というテーマに相応しいということで、話を伺いました。
(3月19日 中之島センター)

— 出身の工学部醸酵工学科では？

当時の醸酵工学科では直接、酒造の研究はやってなかった。私は好きだったこともあり、酒に直結する研究をやった。4年生の時には酒精飲料の不純物を除去するイオン交換樹脂について、大学院では日本酒の麴菌の香気成分について研究した。当時は梅田の闇市なんかで「バクダン」と呼ばれた安酒や、合成清酒（日本酒に醸造アルコール・糖分を加えたもの）を主に飲んでいて。学生にとってウイスキーは高嶺の花だったが、親戚のおじさ

んが防空壕に隠して戦災を逃れたウイスキーを飲ませてくれたことがあって、非常に印象に残っている。サントリーには入るべくして入った。

— 岩井喜一郎・竹鶴政孝との関係は？

岩井さんとは直接お会いしたことはなかったが、酒精の研究者として有名だった。醸造科がつぶされそうになった時（昭和4年の大学昇格の際 松永注）、存続運動の先頭にたったのが岩井さんで、偉大な先輩と聞いている。竹鶴さんとも会ったことはない。この間亡くなられた養子の威さんとは親しかった。びっくりしたのは「竹鶴ノート」。非常に几帳面な字で解説されていて、現在でも技術的に通用する良くできたものである。数量の単位を尺貫法に換算していて、本気で日本でウイスキーを作ろうとしたことが分かる。先覚者として尊敬できる人物だ。

— 鳥井信治郎との思い出は？

入社した頃は既に佐治さんが実質的に経営していたので、あまり接する機会はなかった。ただ毎年正月には雲雀丘の自宅に社員全員を呼んで挨拶して、一日中飲んだ。べろんべろんになった覚えがある。ボーナスは必ず一人一人手渡しするなど、非常に社員思いな方だった。とはいえ仕事熱心で厳しく、現場視察は連絡なしに突然やってきては、上司を壁際まで追い詰めることがよくあった。「マッサン」の鴨居の大将なんかより、ずっとこわかった。

— 佐治敬三はどんな人物？

やはりウイスキーを国民酒にして日本文化に定着させたことが、最大の功績。作り手の感性よりも、飲み手の感性を大事にした。そのため、原酒製造の現場とブレンダー、営業が密に連携し、時に議論を戦わせて商品を作る、そういう環境を用意してくれていた。佐治さんは化学者を志していただけあって、求める味や香りを物質レベルで説明するので分かり易く、それに従っていれば間違いなかった。佐治さんにはずいぶん鍛えられた。関西人一流の冗談をよく言う人で、時に東京の人から誤解されることもあった。

— 佐治が目指したウイスキーとは？

ニッカがスコッチを理想に掲げてウイスキーづくりを行っていたのに対し、サントリーはそれとは違う独自のジャパニーズ・ウイスキーを目指していた。ピートの効いた突出した味よりも、和食にも合うようなバランスのよさを追求した。

スコットランドは時に頑ななまで伝統を大事にするが、製造の各工程を徹底的に科学分析して改良を加えた。1966年に山崎にウイスキー研究所をつくって私が所長になったが、研究所があること自体珍しかった。伝統を盲目的に墨守するのではなく、伝統的な製法を科学的に裏付けて改良していく、そういう方法をとった。例えば蒸留した原酒に変な匂いが見つかることがあって、原因を調べたところ、本来は銅製の蒸留器の一部をステンレスに替えたことが問題だったことが発覚したことがあった。

スコットランドには小さな蒸留所がたくさんあって、大手メーカーがそこから原酒を買ってブレンドし販売するが、サントリーでは原酒の生産から製品の製造・販売を一貫してやる。だから多種多様な原酒を用意しておく必要があって、1973年の白州蒸溜所の建設や、1986年の山崎蒸留所の大改修を任せられ、発酵には木桶やステンレス槽、蒸留には様々な形状のポットスチルを導入した。ブレンダーが「こんな原酒がほしい」とよく言ってきたが、何年、何十年先のことは分からないので、こちらで出来る仕事はとにかく色んな原酒をつくることだった。

— 阪大出身者でつくったのが「響」

「響」は1989年に出来た、マスターブレンダーの佐治が理想とするジャパニーズ・ウイスキー。チーフブレンダーの稲富孝一氏とよく相談して、私が仕込んできた原酒を厳選して造った。稲富氏は阪大理学部出身で、私と違って上品な男だ。音楽好きでバイオリンを弾いていて、よくブレンドを音楽に例えていた。「響」という銘柄もそんなところから来っていて、ブラームスをイメージしたそうだ。



ある意味で「響」は阪大ウイスキーの元祖というべきかも知れない。新たに誕生した阪大ウイスキー「光吹（-MIBUKI-）」の歴史的背景を、今回は垣間見ることができたのではないだろうか。

大阪大学オリジナルウイスキー、誕生。

光吹

— MIBUKI —

OSAKA UNIVERSITY ORIGINAL WHISKY
PRODUCED BY SUNTORY



新しいカタチの産学連携プロジェクト

このプロジェクトは、新しい形の産学連携の取り組みの1つとして、平成26年5月からスタートしました。これまでの産学連携は企業と大学とで、共同研究や受託研究、研究成果の事業化研究や開発を行なうものがほとんどだったと思います。このプロジェクトでは、大阪大学と縁あるサントリースピリッツ株式会社の協力の下、新しい学びの形を企業と大学が協働で学生に提供し、さらにその成果を広く学内に伝えていくという新しいカタチの産学連携プロジェクトです。このプロジェクトでは、超域イノベーション博士課程プログラムの大学院生を中心とする学生たちが、大阪大学卒業生室がもっている「大阪大学の卒業生と学生をつなぐための何か『象徴的なもの』を作りたい」というニーズを満たすために設定された「大阪大学オリジナルウイスキーの製品化と販売」という課題に対して、実際のウイスキーの製品コンセプト・味コンセプトの立案・決定からプロモーションにいたるブランディングやマーケティングの一連の過程について、サントリースピリッツ株式会社からその知識や技術を学びながら、実際にそれを学生プロジェクトチームが行っていくものでした。

11名の有志により始動

平成26年5月14日、超域イノベーション博士課程プログラムの教員と卒業生室の担当者らからなるスタッフからの呼びかけに応じた11名の履修生有志が集まりました。彼らは、複数の研究科に所属する国籍や性別、研究科を超えて集った、実に「超域らしい」メンバーでした。まず、スタッフは、彼らに、「なぜこのプロジェクトに参加しようと思ったのですか?」という一問一答を投げかけました。これに対して、「製品が本当に作られるプロジェクトである」「マーケティングを企

業の人の指導のもとで行うことが出来る」「マネジメントを経験してみたい」などさまざまなものでした。さらにだれをリーダーにすべきか、どのようなチーム編成にすべきか、どんなタスクがあるのかなど議論は白熱しました。それぞれの個人の希望と、一方で、チームで達成しなければいけないこと、「実際の商品を売り出す」という目標は必ずしも一致するものではありませんでしたが、徹底した議論により、チーム編成を含めこのプロジェクトでやるべきことについて1つの方向にチームがまとまることができたのではないかと思います。

「大阪大学オリジナルウイスキー」の重みを感じる

キックオフの後、しばらくはメンバーにとってのインプットの時期が続きました。メンバーのウイスキーに対する印象について話し合ったところ、「まずい」「きつい」「オヤジ臭い」といったネガティブなもの、「飲めるとかっこいい」「大人」といったポジティブなものがあったようです。

6月13日にはサントリーの山崎蒸留所の見学を行い、ウイスキーが作られる過程や歴史、サントリーがもつこだわりについて学びました。ブレンダーによる緻密な計算によって生み出されるブレンデッド・ウイスキーは、分析的な視点を持つ理系研究科の学生に、飲む人を大事にするスピリッツは、叙述的な観点を持つ文系研究科の学生の琴線に触れたようでした。また、同じく6月末には、グランフロント大阪内、ナレッジサロンにおいてサントリーと合同ワークショップを開催し、実際に発売している製品のブランディングとマーケティングに関するケーススタディやフィールドスタディを実施し、プロジェクトで行なうべき全体像に関する理解を深めました。

その後、7月24日の第一回目の製品のコンセプトに



関するプレゼンテーションに向けて準備をすすめていくことになったのですが、なかなかいいアイデアをまとめることができない時期がありました。さすがに、ここに来てメンバーは、「大阪大学オリジナルウイスキー」の重みを感じ、キックオフの頃と異なる動機が目覚めてきました。このあたりから、学生にとっては遠い存在であるウイスキーを、あえて学生をターゲットに開発していくこと、そして自分たちが阪大生の代表としてプロジェクトに関わっていることが意識化され、自主的にデザイン思考のワークショップを開催したり、学生対象のアンケート調査を飛び込みで実施したりとブランディングとマーケティングの活動が本格的になっていきました。

11種の異なる原酒をブレンド、「調和ある多様性」を表現

メンバーの多大な作業の結果、最終的に決定した製品コンセプトは「大人の階段を上るウイスキー」となりました。これは、いわゆるモノトリアムである学生の多くにとって、「大人」は程遠い存在であるが、ウイスキーに触れることによって、あこがれの世界、未来に向かっ

て一歩ずつ足を踏み出していけるというストーリーをコンセプト化したものでした。そしてこの製品コンセプトを実現するためにウイスキーの味をどのようにするかについて議論した結果、ウイスキーの「大人の味」を表現するための味のコンセプトを、11種の異なる原酒を大阪大学の11学部にあてて、それをブレンドすることで表現することになりました。これは結果として、平野総長が言われる「調和ある多様性」も表現することができるといことで、これを味コンセプトとすることが決定されました。

コンセプト決定後、サントリーのブレンダーチームによって11学部を象徴する原酒を、11学部の学生人数比率に応じてブレンドした試作品が完成しました。再び、メンバーは山崎蒸溜所を訪れ、ブレンドを担当した福與チーフブレンダーによる試作品の解説を受けた後、参加したメンバーで試飲をしました。個性的な11の原酒がひとつの「大人の味」を形成する、まさに調和ある多様性に創造を表現していたことに、チームメンバーは感動していました。



「光吹-MIBUKI-」と命名

さて、中味コンセプトが決定し、製品とするための熟成期間に、製品の名前やパッケージのデザインなどを決めなければいけません。ここでも、メンバーはまた大きな壁にぶつかりました。コンセプトである「大人の階段を上るウイスキー」から、ブランドイメージを具体化し、どのような名前をつけるのか。この重要な事項が中々決まらなかったのです。もともと異なる研究科から集ったメンバーたちは、同じ方向を向いていても着眼点や大事にするものが違います。そのすり合わせや議論は、普段の超域プログラムの活動でもよく行うことですが、今回はその結果が製品として実際のターゲットの手に渡るので失敗は許されません。限られた時間と、日常ではないプレッシャーのなか、何度も議論を繰り返し、商標登録で使用可能な名称であることの検証を重ねた結果、「光吹-MIBUKI-」と命名されることになりました。これは、自分たちの先輩が先を行く未来、あこがれの大人の世界から光が吹き込んでくる、将来への小さな一歩となる存在でありたい、ウイスキーの名前には、そのような思いが込められています。

おわりに

大阪大学の卒業生と学生をつなぐという大きな目標に向かった第一歩として、「大人の階段をのぼる」というコンセプトのもと「光吹-MIBUKI-」という名の大阪大学オリジナルウイスキーが完成することになりました。複数のメンバーが1つのストーリーを作っていくというの

はとてもむずかしい作業であると同時に、サントリーとの共同で実際のブランディングやマーケティングのプロセスを、身を持って学ぶことができたのではないかと思います。さらに、このプロジェクトを通して、「阪大生である」というアイデンティティを今まで以上に強く意識したのではないのでしょうか。

さて、阪大生の阪大生への思いが込められた「光吹-MIBUKI-」は、とうとう完成披露を経て発売までやってきました。しかし、このプロジェクトはこれで終わりではありません。メンバーたちは、実際の販売に向けて、さまざまな新たにプロモーション計画を始動しています。彼ら自身もまたさらなる「大人の階段」を登っていかねばいけません。

＜執筆者プロフィール＞

平井 啓（ひらい けい）

未来戦略機構次世代研究型総合大学研究室准教授。1972年生まれ。1997年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程行動学専攻退学。博士（人間科学）。1997年より人間科学部助手、2006年コミュニケーションデザイン・センター助教（学内派遣）、2011年5月大型教育研究プロジェクト支援室講師を経て、2014年8月より現職。専門は健康心理学・行動医学。がん患者の心理的適応（ストレスなど）に関する臨床・研究活動に携わる。2011年より博士課程教育リーディングプログラムの企画に関する業務に携わり、「超域イノベーション博士課程プログラム」として採択後、同プログラムのプログラム担当者（未来戦略機構第一部門兼任）として、プログラムの運営と授業等に関わっている。



平成27年4月2日 大阪城ホール

「世界適塾」 物事の本質を見極め調和ある多様性を創造

21世紀のグローバル社会において大学に求められている新たな役割は、「学問による調和ある多様性の創造」であると考えます。地球上には、言語、慣習、文化、民族、宗教、政治、国家など様々な多様性が存在します。人類の発展はこの多様性によって支えられてきました。一方で多様性が生み出す様々なコンフリクトはグローバル社会においては障壁となり、紛争や戦争を引き起こすことすらあります。大学は学問という人類共通言語を有しています。学問はスポーツや芸術、あるいは経済活動等と並んでこの障壁を乗り越える大きな力となります。学問を介する人と人との交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相反することの両立が可能となります。大阪大学は学問の府として、「物事の本質を見極め調和ある多様性を創造」することにより、21世紀のグローバル社会に大きく貢献していきます。

総長 平野 俊夫

世界適塾入試の実施

平成29年度から大阪大学の全学部で世界適塾入試を実施します。この新たな入試では、各学部のアドミッション・ポリシーにより学部毎の違いはありますが、センター試験で基礎学力を担保した上で高校時代の課題研究・課外活動・ボランティア活動・海外留学体験などの成果報告書／調査書や実践英語能力を見る外部検定試験の成績などに加えて口頭試問により多面的・総合的に選抜することにより、グローバル社会で活躍できる多様な能力を持つ意欲的で優秀な人材を集めることにしています。世界適塾入試の導入に伴い、平成29年度から個別学力検査の後期日程は募集を停止します。

日本の教育は高度成長を支えるために均質な能力を備えた人材を養成してきましたが、グローバル化が進み変化の激しい時代になり、自ら主体的に課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を育ていく教育が求められるようになりました。初・中等教育がそのように変わりつつある中、大学教育もこれまでの講義中心の授業から課外学習を課す授業や課題発見・課題追求型の対話型授業に移行しつつあります。変わりつつある高校教育と大学教育を繋ぐ大学入学者選抜方法も、これまでのペーパーテストから総合的選抜に移行する必要がある、世界適塾入試もそのような流れを汲むものです。

これまでも基礎工学部の推薦入試、理学部の研究奨励AO入試や工学部・基礎工学部・理学部共同実施の国際科学オリンピックAO入試などが行われていましたが、グローバル社会で活躍できる多様な能力を持つ優秀で意欲的な人材を集める世界適塾入試はその試みを全学部に拡大するものです。

世界適塾入試では平成29年度から3年かけて学部学生の10%にあたる約350名を募集する予定です。外国人留学生を海外募集・選抜するために平成26年度にグローバルアドミッションズオフィス（GAO）を設置しましたが、平成29年度からは各学部とGAOが協力して世界適塾入試を実施することになっており、平成27年度、28年度にGAOを強化して選抜方法の調査・研究・開発にあたることにしています。

世界適塾入試の概要については、本学公式ウェブページに掲載しています。

理事・副学長 東島 清

ロシア科学アカデミーと学術交流協定を締結

ロシア科学アカデミーと大阪大学の間で大学間学術交流協定を、ロシア科学アカデミー高温共同研究所と未来戦略機構の間で、部局間学術交流協定を、平成27年2月9日付けで締結しました。

これまでも、核物理研究センター等を中心にロシア科学アカデミーとは共同研究が行われておりましたが、昨年10月に設置しました大阪大学未来戦略光科学連携センターでのパワーレーザー設備の本格稼働により、今後より一層の国際共同研究と関連する世界に通じる人材育成を推進するため、大学間学術交流協定を締結する運びとなったものです。

また、ロシア科学アカデミー高温共同研究所とは、プラズマ科学分野における共同研究はもちろんのこと、平成26年度には同研究所の外国人科学者を任期無し年俸制教員として本学で初めて採用する等、今回の部局間学術交流協定の締結により、益々有益な交流、効果が得られるものと期待されています。

理事・副学長 相本 三郎



記者会見（3月3日）

国際共同研究促進プログラムを選定（平成27年度開始プログラム）

大阪大学の未来戦略の一環として、最先端の研究を展開している外国人研究者とそのグループを本学に招へいし、本学の研究力を一層高めるとともに、グローバル化を促進するための事業として、平成25年度に「国際共同研究促進プログラム」を創設し、既に22件のプログラムがスタートしています。この度、平成27年度開始分のプログラムの公募を行い、14件のプログラムを採択しました。

選定されたプログラムでは、外国人研究者の旅費・謝金、教職員・学生の旅費、研究員の雇用経費などを、最長3年間支援します。本共同研究が定着・発展し、学内に多くの国際ジョイントラボが立ち上がることを期待しています。

今回選定した14件のプログラムの研究代表者は以下のとおりです。

国際共同研究促進プログラム 採択一覧	
研究代表者	外国人研究者所属機関（国名）
鄭 聖汝（文学研究科講師）	ライス大学（アメリカ）
友部 謙一（経済学研究科教授）	復旦大学（中国）・カリフォルニア大学アーヴァイン校（アメリカ）
松野 健治（理学研究科教授）	マンチェスター大学（イギリス）
村田 道雄（理学研究科教授）	オーボアカデミ大学（フィンランド）
坂田 泰史（医学系研究科教授）	キングス・カレッジ・ロンドン（イギリス）
岡田 欣晃（薬学研究科准教授）	ハーバード大学医学大学院／ベイスラエルメディカルセンター（アメリカ）
藤原 康文（工学研究科教授）	アムステルダム大学（オランダ）
茅田 博一（基礎工学研究科教授／附属未来研究推進センター長）	ソウル大学校（韓国）
宮崎 文夫（基礎工学研究科教授）	マサチューセッツ工科大学（アメリカ）
倉橋 隆（生命機能研究科教授）	カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）
菅沼 克昭（産業科学研究所教授）	北京工業大学（中国）
八木 康史（産業科学研究所長／教授）	カーネギーメロン大学（アメリカ）
民井 淳（核物理研究センター准教授）	ダルムシュタット工科大学（ドイツ）
斗内 政吉（レーザーエネルギー学研究センター教授）	ライス大学（アメリカ）

各プログラムの研究概要は、本学公式ウェブページに掲載しています。

平成25年度、平成26年度の採択プログラムについても、ウェブページをご覧ください。

理事・副学長 相本 三郎

平成27年度国立大学運営費交付金新規事業

平成27年度概算要求については、本学の教育研究活動のさらなる充実・発展に資する事業の実施のための特別経費を要求しておりましたが、そのうち「プロジェクト分」3件、「教育研究組織の再編成を見据えた構想プロジェクト」1件、「機能強化関連プロジェクト」1件が新規事業として採択されました。

【プロジェクト分】

医・工・情報融合領域におけるグローバル産学連携人材育成プログラムの構築（臨床医工学融合研究教育センター）
創薬・医療機器開発・再生医療の実用化を3本柱とする大阪発医療イノベーションの実現を目指し、領域横断的に必要な教員を配置して国際医工情報センターを設置し、革新的なグローバル産業を創生するリーダー育成教育機能を強化する。

複雑システム解析のための次世代数理・データ科学人材育成（金融・保険教育研究センター）
グローバル化されたカリキュラムを組み入れた超領域型副専攻プログラム群を提供し、世界レベルの先端金融・保険数理技術や先進数理・データ科学技術を駆使して、分野横断型の融合研究・開発ができるグローバル人材を輩出する。

医理連携による進行がん治療のための国際医療拠点形成事業（理学研究科・医学系研究科・核物理研究センター）
有効な治療法のない進行がんを対象とするα線内用療法（放射線核種を投与し、体内からがんを治療）を開発する。本療法を実施する国際医療拠点を形成し、新たな医療法の国際標準化、医療イノベーション創出（新放射線医薬・医療機器の開発）を目指す。

【教育研究組織の再編成を見据えた構想プロジェクト】

教育組織の再編を見据えたグローバルな入学者選抜方法の調査研究（グローバルアドミッションズオフィス）
世界適塾を目指す本学が、国境を越えて才能ある人材を受け入れ、グローバル人材として世界に送り出すためには、単に学力のみならず意欲や学問への志も含めて、多面的・総合的かつ丁寧な選考を行う必要があり、その実現のため、グローバルアドミッションズオフィスにおいて、国内外の大学の関連組織やノウハウの調査研究、分析等を行う。

【機能強化関連プロジェクト】

国際的に卓越したヒトエピゲノム環境因子解明研究の拠点形成～健やかな社会と健康長寿の実現に向けて～（医学系研究科 保健学科）
大阪大学が構築した世界初の体系的な双生児研究基盤を基に、疾病等の発症・変化を惹起するヒトエピゲノム環境因子の機序解明を目指したアジアにおける研究拠点を形成する。ヒトエピゲノム環境因子の解明を通じて、予防医療等を実現し健康長寿・健康社会の実現を目指す。

理事・副学長 恵比須 繁之

平成26年度部局長・事務(部)長裁量未来戦略経費の配分部局決定

大阪大学では、部局マネジメントの充実を図るための支援策として平成25年度から、本学の未来戦略実現のために積極的に取組み優れた成果をあげた部局や事務部等に対して、裁量経費を配分する制度「部局長裁量未来戦略経費」及び「事務(部)長裁量未来戦略経費」を創設しています。

今年度は、「グローバル化」を重点テーマに、各部局長、事務(部)長が知恵を絞り真剣に取り組んだ結果、部局長裁量未来戦略経費に18件、事務(部)長裁量未来戦略経費に15件もの取組成果が集まりました。

その中から、先進的又は特色のある、優れた成果を上げた取組を実施した6部局長、1事務(部)長の部局に対して、未来戦略経費の配分を決定しました。

配分が決定した部局の取組成果は、学内全体会議の場で報告いただくこととしており、全学において取組成果とノウハウの共有による波及効果が期待されます。

なお、平成27年度も本制度を実施し部局マネジメントを支援していく予定ですので、各部局等におかれましても引き続き努力いただきますようお願いします。

配分部局・取組名は下記のとおりです。

理事 大木 高仁

○部局長裁量未来戦略経費(6部局) 配分額：1件500万円

部局等名	取組名
文学研究科	人文学クラスターの創設による国際共同研究の推進
人間科学研究科	部局運営における先進的取り組み成果(観点:グローバル化)
経済学研究科	国際化・グローバル化のための国際交流・国際共同研究活動の活性化・強化 -スーパー・グローバル大学への布石-
医学部附属病院	阪大病院「国際医療センター」新設による医療のグローバル化
外国語学部	「世界適塾:海外派遣学生数倍増」への取組 -言葉を究めて世界にはばたく-
国際教育交流センター	グローバルキャンパス4WD (Forward)戦略

○事務(部)長裁量未来戦略経費(1部局) 配分額：1件100万円

部局等名	取組名
医学部附属病院	医療材料価格交渉支援を利用した契約担当職員による継続的な契約交渉の取り組み

新たな称号「大阪大学Global Alumni Fellow」第1号を授与

2月7日(土)、タイ王国バンコク市内で開催された「大阪大学タイ同窓会」(約80名の卒業生等が参加)において、新たな称号「Global Alumni Fellow」の授与式を行い、第1号として、大阪大学タイ同窓会の会長を務めるDr. Itthichai Arungsrisangchai (2003年、工学博士)に授与を行いました。

「Global Alumni Fellow」は、世界の学術界で活躍する大阪大学ファミリーとの関係強化とネットワーク構築、本学の国際的プレゼンスの向上を目的として新たに創設した称号です。

海外の大学等で教授等として活躍する卒業生や元教職員を対象に、今後も順次授与を進める予定です。

理事・副学長 大竹 文雄

理事・副学長 岡村 康行



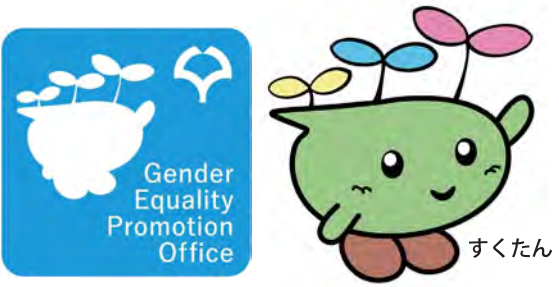
Global Alumni Fellow 授与式

新・男女共同参画推進オフィスの設置

大阪大学が持続的な発展を遂げていくためには、その原動力となる「人」、すなわち大学の構成員の「多様性」を根付かせ、確保することが不可欠となります。その最も身近な源泉である「性別」について、大阪大学では、これまでも男性や女性といったことにかかわらず能力や個性を最大限発揮できる大学づくりを進めてきましたが、残念ながら、必ずしもその取組が、構成員の皆様方の意識や取組といった面で浸透して全学的な広がりを見せているとは言えないのが現状です。

このため、これまでの反省に立ちつつ、取組をさらに強化していくために、このたび、副学長を室長とし、各部局の教授を室員とする新たな「男女共同参画推進オフィス」を設置しました。近く吹田キャンパスに開園予定の病児・病後児保育室「あおぞら」のほか、今後、このオフィスが中心となって、皆様方の声に応える取組を実行に移していきますので、引き続きのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

理事 大木 高仁



大阪大学の男女共同参画事業の一つである「大阪大学保育園」のキャラクター「すくたん」をモチーフに用い、「すくたん」のシルエットと大阪大学のイチョウマークを組み合わせたものを男女共同参画推進オフィスのロゴとした。

大阪府能勢町と連携協力に関する包括協定書を締結

2月17日(火)、本学と大阪府能勢町は連携協力に関する包括協定を締結しました。各々が有する資源の活用を図り、教育、研究、文化の振興、まちづくり等の様々な分野において活動の充実を図るとともに、地域連携を推進し、両者の発展および活性化に寄与することを目的としたものです。

以前から、能勢町の浄瑠璃を、本学文学研究科の演劇学の講義で取り入れたり、能勢町中学生の英語授業に本学留学生を派遣するなどの事業を進めるなど、相互交流が進められてきましたが、能勢町の自然豊かな里山フィールドを、本学の留学生や構成員が日本文化の再発見の場として活用したり、日本の地方自治体が抱える少子高齢化、教育問題などの調査・研究のケーススタディとするなど、様々な取り組みを進める基盤ができました。

理事・副学長 岡村 康行



平野俊夫総長(左)と山口禎能勢町長

中之島センターの特別減免制度を本格実施

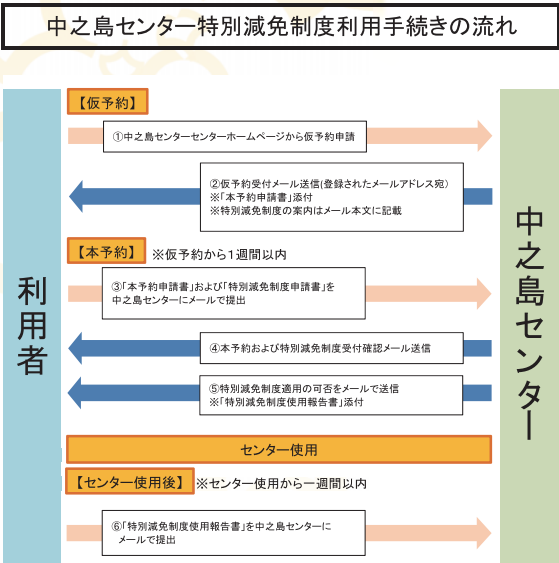
中之島センターの活用機会を増やすために「特別減免制度」をはじめます。

本学教職員の研究会や勉強会、卒業生による同窓会、学生の課外活動団体による活動など、大阪大学関係者が定められた目的に沿って、中之島センターを使用する場合、その使用料を減免するものです。

従来、中之島センターでは「特別割引制度」を試行的に実施していましたが、平成27年4月から「特別減免制度」として本格実施することとしました。皆様に中之島センターを積極的に活用していただくことで、中之島センターがさらに活性化し、大阪大学のブランドを高めることにもつなげるものです。

利用者に快適に使用いただける準備を整えて、ご利用をお待ちしております。詳しくは、大阪大学中之島センターホームページをご覧ください。

理事・副学長 岡村 康行



多様な大学職員研修を実施

12月19日(金)、1月22日(木)、職員向け研修として、「大阪大学情報発信力トレーニングプログラム」を実施しました。

第1ラウンド「大阪大学・ミーツ・ブランド」では、どうすれば大学のブランドを確立できるのか、ブランドの在り方や阪大での実践について、丸の内ブランドフォーラム代表の片平秀貴氏と、本学クリエイティブユニットの伊藤雄一准教授による講演が行われました。

第2ラウンド「決裁がおりた!通る企画の作り方。」では、本学未来戦略機構次世代研究型総合大学研究室の平井啓准教授を講師に招き、本学で実施されたイベントを事例にグループワークを行いました。誰に、何を、どのように届けて、どう思わせたいのかデザインし、相手に納得させる企画について活発な議論がされました。

1月6日(火)、本学初の試みとなる私立大学との合同研修「大阪大学×同志社大学合同SDワークショップ」を同志社大学今出川キャンパスで実施し、両大学の事務職員計41名が、国立・私立の垣根を越え、職場でのキャリア形成について様々な意見交換を行いました。

本学教育学習支援センターの佐藤浩章副センター長による講義『プロフェッショナル大学職員への道～職員に求められる能力とは何か～』の後、グループ毎に「前例踏襲主義」「大学の将来とビジョンの非共有」など、各職場における人材育成に関わる課題を挙げ、改善策を話し合ったほか、評価制度、キャリアパスの違いなど、様々な知見を共有することができました。

PMTは今後も、意識変革のための様々な大学職員研修を企画し、大学の未来にコミットする職員の育成に努めていきます。

総長室 PMT



大阪大学 × 同志社大学合同 SD ワークショップ

人 事

新理事補佐

平成27年4月1日	飯國洋二(基礎工学研究科教授)	ハラスメント専任担当
	中谷和彦(産業科学研究所教授)	広報・社学連携担当
	平田收正(薬学研究科教授)	教育担当
	松繁寿和(国際公共政策研究科教授)	教育担当
	水島郁子(高等司法研究科教授)	男女共同参画担当

新部局長

平成27年4月1日	医学系研究科長・医学部長	澤芳樹
	歯学研究科長・歯学部長	天野敦雄
	言語文化研究科長	木村茂雄
	社会経済研究所長	石田潤一郎
	接合科学研究所長	田中学
	低温センター長	掛下知行
	国際医工情報センター長	八木哲也
	ナノサイエンスデザイン教育研究センター長	戸部義人

新施設長

平成27年4月1日	医学系研究科附属共同研究実習センター長	河原行郎
	医学系研究科附属ツインリサーチセンター長	岩谷良則
	医学系研究科附属最先端医療イノベーションセンター長	高島成二
	工学研究科附属高度人材育成センター長	神戸宣明
	接合科学研究所附属スマートプロセス研究センター長	節原裕一

新教授

平成27年2月16日	村上靖彦	【所 属】人間科学研究科 人間科学専攻基礎人間科学講座 【最終学歴】H12.2 バリ第7大学大学院臨床人間科学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	西野邦彦	【所 属】産業科学研究所 第3研究部門(生体・分子科学系) 【最終学歴】H15.3 大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
平成27年4月1日	山上浩嗣	【所 属】文学研究科 文化表現論専攻西洋文学・語学講座 【最終学歴】H22.2 バリ第4＝ソルボンヌ大学博士課程修了	【前職】本学准教授
	BURDELSKI MATTHEW JAMES	【所 属】文学研究科 文化表現論専攻日本語学講座 【最終学歴】H18.6 カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院東アジア言語文化研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	佐藤廉也	【所 属】文学研究科 文化動態論専攻共生文明論講座 【最終学歴】H11.3 京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了	【前職】九州大学
	大谷順子	【所 属】人間科学研究科 グローバル人間学専攻地域研究講座 【最終学歴】H15.9 ロンドン大学大学院博士課程修了	【前職】本学准教授
	高橋篤史	【所 属】理学研究科 数学専攻代数学講座 【最終学歴】H10.3 京都大学大学院理学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	山ノ井克俊	【所 属】理学研究科 数学専攻大域数理学講座 【最終学歴】H12.3 京都大学大学院理工学研究科博士後期課程修了	【前職】東京工業大学
	高木慎吾	【所 属】理学研究科 生物科学専攻細胞生物学講座 【最終学歴】S61.3 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	昆隆英	【所 属】理学研究科 生物科学専攻生物物質学講座 【最終学歴】H12.3 東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了	【前職】法政大学
	酒井規夫	【所 属】医学系研究科 保健学専攻生命育成看護科学講座 【最終学歴】H6.3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	山崎あけみ	【所 属】医学系研究科 保健学専攻生命育成看護科学講座 【最終学歴】H15.6 カリフォルニア大学サンフランシスコ校大学院看護学研究科博士後期課程修了	【前職】上智大学

新教授

平成27年4月1日	山本浩文	【所 属】医学系研究科 保健学専攻機能診断科学講座 【最終学歴】S63.3 大阪大学医学部卒業	【前職】本学准教授
	大政健史	【所 属】工学研究科 生命先端工学専攻物質生命工学講座 【最終学歴】H4.3 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】徳島大学
	小林英樹	【所 属】工学研究科 機械工学専攻統合デザイン工学講座 【最終学歴】H8.3 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了	【前職】東芝
	浅井知	【所 属】工学研究科 マテリアル生産科学専攻生産プロセス講座 【最終学歴】S55.3 大阪大学大学院工学研究科博士前期課程修了	【前職】東芝テクニカルサービス インターナショナル
	森伸也	【所 属】工学研究科 電気電子情報工学専攻集積エレクトロニクス講座 【最終学歴】H3.3 大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	後藤晋	【所 属】基礎工学研究科 機能創成専攻熱流体力学講座 【最終学歴】H11.3 総合研究大学院大学数物科学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	中村芳明	【所 属】基礎工学研究科 システム創成専攻固体電子工学講座 【最終学歴】H14.3 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	山本佳樹	【所 属】言語文化研究科 言語文化専攻現代超域文化論講座 【最終学歴】S62.3 大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了	【前職】本学准教授
	竹村景子	【所 属】言語文化研究科 言語社会専攻アジア・アフリカ講座 【最終学歴】H4.3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修了	【前職】本学准教授
	藤原克美	【所 属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ講座 【最終学歴】H6.3 大阪市立大学大学院経済学研究科前期博士課程修了	【前職】本学准教授
	中川裕之	【所 属】言語文化研究科 言語社会専攻ヨーロッパ講座 【最終学歴】H6.3 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	中西賢次	【所 属】情報科学研究科 情報基礎数学専攻応用解析学講座 【最終学歴】H11.9 東京大学大学院数理科学研究科博士課程修了	【前職】京都大学
	松下康之	【所 属】情報科学研究科 マルチメディア工学専攻ビジネス情報システム講座 【最終学歴】H15.3 東京大学大学院工学系研究科博士後期課程修了	【前職】マイクロソフト リサーチアジア
	石島秋彦	【所 属】生命機能研究科 生命機能専攻ナノ生体科学講座 【最終学歴】S61.3 早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了	【前職】東北大学
	深川竜郎	【所 属】生命機能研究科 生命機能専攻細胞ネットワーク講座 【最終学歴】H7.9 総合研究大学院大学生命科学研究科博士後期課程修了	【前職】国立遺伝学研究所
	佐々木洋	【所 属】生命機能研究科 生命機能専攻個体機能学講座 【最終学歴】H2.3 東京大学大学院理学系研究科博士課程修了	【前職】熊本大学
	原英二	【所 属】微生物病研究所 環境応答研究部門遺伝子生物学分野 【最終学歴】H5.3 東京理科大学大学院理工学研究科博士課程修了	【前職】がん研究所
	飯田哲也	【所 属】微生物病研究所 附属難治感染症対策研究センター細菌感染分野 【最終学歴】H3.3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了	【前職】本学特任教授(常勤)
	黒田俊一	【所 属】産業科学研究所 第3研究部門(生体・分子科学系) 【最終学歴】S61.3 京都大学大学院農学研究科修士課程修了	【前職】名古屋大学
	中西周次	【所 属】太陽エネルギー化学研究センター 【最終学歴】H11.3 大阪大学大学院基礎工学研究科博士前期課程修了	【前職】東京大学
	杉山清寛	【所 属】全学教育推進機構 企画開発部学部共通教育部門 【最終学歴】S63.3 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	COBAN ISHII CEVAYIR	【所 属】未来戦略機構 グローバル化推進部門 【最終学歴】H6.7 ハジETTEベ大学医学部卒業	【前職】本学特任准教授(常勤)
	菅真城	【所 属】アーカイブズ 法人文書資料部門 【最終学歴】H6.3 広島大学大学院文学研究科博士課程前期修了	【前職】本学准教授
	三森八重子	【所 属】グローバルアドミッションズオフィス 【最終学歴】H23.3 東北大学大学院工学研究科博士後期課程修了	【前職】筑波大学

定年退職者(平成27年3月31日)

教員

文学研究科	上倉庸敬 工藤真由美
人間科学研究科	神前進一
経済学研究科	小郷直言 中島望
理学研究科	白井三平 倉光成紀 小松玄 原田明 満渕俊樹 若松正志
医学系研究科	大関修治 木下博 杉山治夫 武田雅俊 永井利三郎 藤原千恵子
歯学部附属病院	森崎市治郎
薬学研究科	松田敏夫
工学研究科	明石満 飯田敏行 井上義雄 井上佳久 大竹久夫 大森裕 金谷茂則 中村隆夫 原島俊 平尾俊一

工学研究科	福住俊一 堀池寛 守口寛
基礎工学研究科	荒木勉 占部伸二
言語文化研究科	小矢野哲夫 清水育男 渡部眞一郎
情報科学研究科	薦田憲久
生命機能研究科	河村悟
産業科学研究所	江村修一 谷村克己 新田孟
接合科学研究所	小溝裕一 中田一博 中長啓治
全学教育推進機構	井上寛
太陽エネルギー化学研究センター	松村道雄
科学機器リノベーション・工作支援センター	石塚守

事務・技術・医療職員

財務部豊中調達センター室	今西一郎 川嶋清只
教育推進部学生・キャリア支援課	喜田一也
監査室	阪口章
全学教育推進機構等事務部	泰垣内武夫
附属図書館箕面地区図書館サービス課	中野雅彦
理学部	古木良一
理学研究科事務部	岡崎信夫

理学研究科事務部	榎原豊 三桝雅弘
医学部附属病院	末久悦次 細坪秀夫 浮田弘美 西田健樹 森脇千賀子 鹿島泰子 小山田まり子 名加英子 藤田洋子 高嶋真知子
医学部附属病院事務部	小西竹生
医学部附属病院医事課	濱田鈴枝
歯学部附属病院	川尻節子
歯学研究科総務課	南潤一郎
歯学研究科業務課	内藤克己 廣田映二
工学部	大道徹太郎 川辺了一 杉山明 大寺洋 杉本久司
基礎工学部	花見眞司
基礎工学研究科事務部	脇成吾
産業科学研究所技術室	松川博昭
産業科学研究所事務部	三田敏夫
レーザーエネルギー学研究センター	西岡俊一

訃報

教養部	岸本卯一郎 名誉教授	平成27年1月14日 逝去
核物理研究センター	三浦岩 名誉教授	平成27年1月30日 逝去
基礎工学部	片山俊 名誉教授	平成27年2月4日 逝去
国際公共政策研究科	松浦寛 名誉教授	平成27年2月8日 逝去
レーザー核融合研究センター	山中龍彦 名誉教授	平成27年2月26日 逝去
基礎工学部	笛野高之 名誉教授	平成27年3月5日 逝去
言語文化部	奥田博之 名誉教授	平成27年3月11日 逝去
教養部	長山泰孝 名誉教授	平成27年3月15日 逝去
工学部	井川博 名誉教授	平成27年3月18日 逝去
基礎工学研究科	葛面道生 名誉教授	平成27年4月3日 逝去

表彰・受賞等

— 第10回大阪大学総長による表彰 —

人間科学研究科	志村剛 教授	基礎工学研究科	尾方成信 教授
	中澤渉 准教授		金澤尚史 講師
	乾賢 助教		三輪真嗣 助教
法学研究科	武田直大 准教授	言語文化研究科	西田理恵子 准教授
理学研究科	西内智彦 助教	国際公共政策研究科	山添大丈 助教
医学系研究科	河原行郎 教授	情報科学研究科	石原靖哲 准教授
医学部附属病院	堀島裕之 事務職員	産業科学研究所	西野邦彦 准教授
歯学研究科	西村理行 教授		菅原徹 助教
工学研究科	三浦雅博 教授		近藤孝文 助教
	高井重昌 教授	蛋白質研究所	小佐田高史 技術専門職員
	佐藤哲也 准教授	接合科学研究所	小澤隆弘 助教
	垂水竜一 准教授	免疫学フロンティア研究センター	加藤和貴 特任准教授(常勤)
	山崎慎太郎 准教授	情報推進部	山口文雄 課長補佐
	宮本俊幸 准教授	安全衛生管理部	山本仁 教授
	平野康次 助教		
	竹内昭博 技術専門職員		

— 退職時(平成27年3月31日)永年勤続者表彰 —

財務部豊中調達センター室	今西一郎	医学部附属病院	末久悦次
	川嶋清只		細坪秀夫
教育推進部学生・キャリア支援課	喜田一也		西田健樹
監査室	阪口章		小西竹生
全学教育推進機構	泰垣内武夫	医学部附属病院医事課	濱田鈴枝
附属図書館箕面地区図書館サービス課	中野雅彦	歯学研究科総務課	南潤一郎
理学部	古木良一	歯学研究科業務課	内藤克己
理学研究科	岡崎信夫		廣田映二
	榎原豊	工学部	大道徹太郎
	三樹雅弘		大寺洋
医学部附属病院	鹿島泰子		川辺了一
	森脇千賀子	基礎工学部	杉本久司
	小山田まり子	基礎工学研究科	花見真司
	名加英子	基礎工学研究科	脇成吾
	藤田洋子	産業科学研究所技術室	松川博昭
	村田郁子	産業科学研究所	三田敏夫
	高嶋真知子	レーザーエネルギー学研究センター	西岡俊一

教職員インタビュー

ようこそ大阪大学へ！ 阪大の未来を支える新人職員にインタビュー

3つの質問！
①阪大または阪大職員のイメージ
②阪大のおすすめスポット
③今後やってみたいこと

毎年多くの職員が大阪大学に就職します。

新人職員のみなさんは、阪大にどのようなイメージをもち、
どのような意気込みをもって入職されたのでしょうか。



千葉 美里
人間科学研究科 教務係
事務職員
(H26.8.1 採用)

- ①世界トップの教育研究を目指している大学。
予測以上に様々な業務があり、学生の時はほんの一部しか
見えていなかったのだなあと日々実感しています。
- ②ミュージアムカフェ坂。静かで落ち着けるカフェです。
ランチとデザートが美味しくてお勧めです！
- ③学生の国際交流や留学生のサポート、研究の国際連携など
に携わる仕事に興味があります。



大原 真美
広報・社会学連携オフィス
社会学連携課 社会学連携第一係
事務職員
(H26.10.1 採用)

- ①教育関係のイメージが強かったのですが、今は研究支援、キャン
パス整備、地域との連携など、違った阪大が見えてきて面白いです。
- ②総合学術博物館の屋上。夕刻に真っ赤で大きな夕日が沈ん
でいく姿が目前に見られてとてもすてきです。
- ③派遣先を増やしたり、分りやすい制度にするなど、阪大生が
海外で学べる機会を増やし、学生さんが一歩踏み出すお手
伝いをしたいです。



下野 拓明
レーザーエネルギー学
研究センター 会計係
事務職員
(H26.10.1 採用)

- ①学生と接する仕事が多いと思っていましたが、先生や研究員
の方々とのやりとりも多く、いまだに少し緊張しています。
- ②テクノアライアンス横西のベンチ周辺。空が大きく見え、帰り道
の夕日がきれいで、今日もお疲れさま!という気持ちになります。
- ③現在ではてんやわんやしながらも周りの方から学んでいます。
今後、いろんな角度から大学を見て知見を広げ、様々な仕
事に携わりたいです。



山下 顕嗣
医学部附属病院 管理課
機械係技術職員
(H26.7.1 採用)

- ①スケールの大きい法人。働く前のイメージよりも施設の規模、
予算、工事件数ははるかに多いので、やりがいがありそうです。
- ②病棟屋上。吹田キャンパス全体や太陽の塔・冷却塔が一望
でき、晴れた日はあべのハルカスも見えるらしいです。
- ③「世界適塾」をコンセプトとした環境への配慮と、利用者にと
対して安全・安心・快適な環境を提供できる、高品質・高機能・
最先端の施設をつくりたいです。



村田 衣代
総務企画部人事課
職員第一係
事務職員
(H26.10.1 採用)

- ①グローバル化に積極的に取り組んでいる大学。学生・教員
の方と接するイメージが強かったのですが、働いてみて、大
学の仕事は多種多様だと感じています。
- ②豊中キャンパスのメインストリート。季節に応じて自然豊かな
景色を楽しむことができ、大学らしい雰囲気があります。
- ③国籍や立場にかかわらず、大阪大学を訪れる全ての人にとっ
て、快適なキャンパス作りに取り組んでいきたいです。



久世 さとみ
附属図書館学術情報整備室
図書職員
(H27.4.1 採用)

- ①学生も教職員もできる人・レベルの高い人が多い印象です。
総合大学なので、いろんな種類の資料を扱えるところに魅力
を感じています。
- ②豊中・保健センター裏の池。梅がきれいで、いい香りがします。
夏は亀が甲羅干しをしている様子が見られ、自然の移り変わ
りを感じます。
- ③図書館利用者の方を第一に考えたサービス・利用者教育に
取り組み、情報資源を有効に活用できる阪大生を社会に送り
出したいです。

*阪大の教職員の方で、「こんなすごい特技がある人がある」「ユニークな資格を持っている」など、他の人にも紹介したい
「すごい阪大人」をご存じでしたら、広報課までお知らせください。

多面的・総合的な選抜により、
国内外からの優秀な学生受け入れを推進

グローバルアドミSSIONズオフィス

【グローバルアドミSSIONズオフィスとは？】

大阪大学は、国内外から優秀な学生を受け入れ、各方面で指導的立場に立てるグローバル人材を育成し、世に送り出すという志を有しています。

大阪大学グローバルアドミSSIONズオフィス（GAO：Global Admissions Office）は、その志の実現のための方策の1つとして、昨年6月1日付けで設置された組織です。

同オフィスは、本学のアドミSSION・ポリシーに基づく適切な入学選抜のあり方を研究開発し、多面的・総合的な選抜を実施することにより、国内外から優秀な学生を受け入れ、本学の教育の国際化の推進に資することを目的としています。

オフィス長は未来戦略機構戦略企画室の川嶋天津夫教授が兼任し、専任教員2名（教授1、特任准教授1）、その他関係部局からの兼任教員7名が構成員です。

【優秀な学生確保の第一歩を実施しています】

平成26年度は、AO入試等に係る国内外の大学の調査研究の他、優秀な学生確保の第一歩として海外の高校生を対象に「海外在住私費外国人特別入試（日本語研修・予備教育あり）【I型】」を実施しました。

当該入試は、「日本に来日することなく受験ができること」「学部入学までの半年間、日本語研修および予備教育を提供すること」「成績優秀者への経済的支援（学部入学後に授業料免除または奨学金を支給）を行うこと」を特徴としており、今年の2月16日から19日にかけて、テレビ会議システムを利用して、台湾、中国、韓国、ベトナムの面接会場に集まった受験者に対し面接を行い7名の合格者がありました。



豊中キャンパス文理融合型研究棟5階応接室

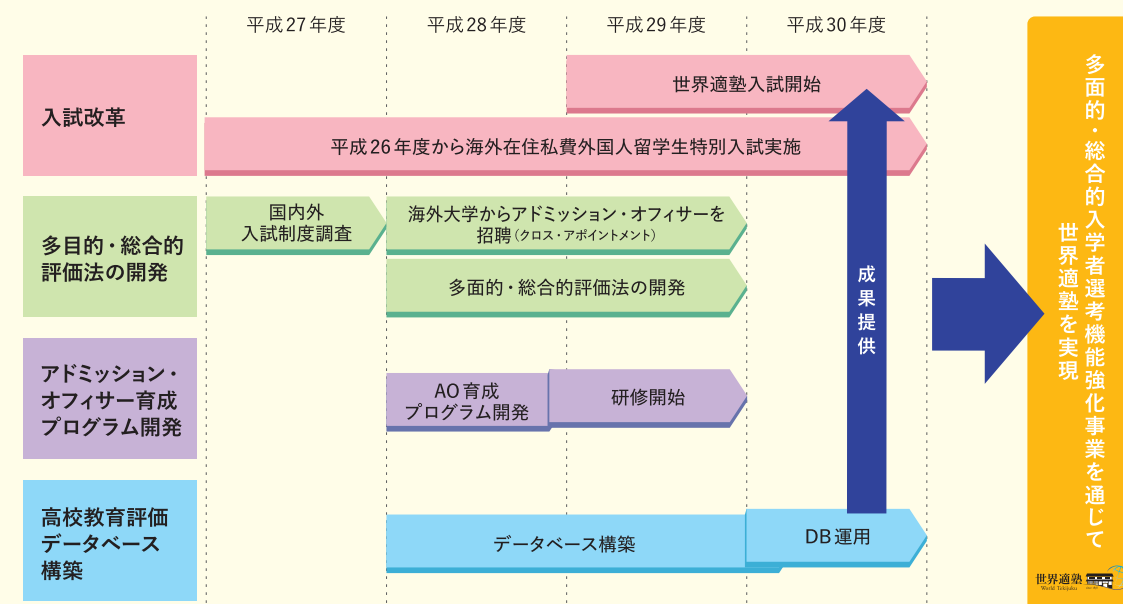
テレビ会議システムで面接



海外の面接会場（韓国 KOREANA HOTEL）

面接官

グローバルアドミSSIONズオフィスの今後の活動予定



「グローバルアドミSSIONズオフィスの今後」

川嶋 天津夫
オフィス長



大阪大学は平成29年度入試から、全学部で後期日程の募集を停止し、代わりに「世界適塾入試」として各学部で推薦入試あるいはAO入試を導入することとしました。これは、大阪大学が、世界で冠たる大学として飛躍するためには、一定の学力を有するだけでなく、多様な才能や経験を有する優秀な学生を世界中から募集し、互いに切磋琢磨することによって、本学の教育研究の質と水準を向上させるとともに、将来のグローバル・リーダーを育成しようとする戦略に基づくものです。他方、現在、国レベルでは、これまでの学力試験を中心とした入学選抜から、部活動、留学経験、ボランティア活動、探求活動など、高校時代の様々な主体的な取組を考慮した多面的・総合的な入学選抜への転換が強く求められています。「世界適塾入試」の導入は、まさに国レベルでの新しい入試方法を取捨する画期的な取り組みです。

本学では、しかし、推薦入試やAO入試は、これまで一部の学部において小規模に実施されてきたにすぎません。今回の入試改革では、最終的には入学定員の約1割に当たる350名を「世界適塾入試」で募集することとなりました。グローバルアドミSSIONズオフィスには、今年度から開始した「私費外国人留学生特別入試」での経験や海外の入試制度の調査研究を通じて、多面的・総合的な入学選抜方法を各学部と協働しながら開発し、そのノウハウを各学部提供するという重要な使命を期待されています。

「21世紀の海外学生のリクルート活動」

ジョージ T. シボス Ph.D.
特任准教授



私はグローバルアドミSSIONズオフィス（以下 GAO）が設立されて数か月後の昨年12月にアメリカの私立大学から大阪大学にやってきました。日本の国立大学に新設されたアドミSSIONズオフィスについては漠然と理解はしていましたが、すぐに大阪大学、そして日本の高等教育にとって「大きな可能性と課題」の時期にやってきたのだとわかりました。GAOでの私の役割は、主にグローバルリクルート戦略の策定と実施ですが、まず、着手すべき課題はGAOを中心とした全学規模での外国人学生のリクルート戦略の体制構築です。現在は部局単位でのリクルート活動をGAOが主体となり、全部局を包括して推進していくべきと考えます。また、世界中の大学が優秀な外国人学生獲得に向けた広報活動を行う中で、大阪大学の魅力的なPRメッセージを発信していくことも重要な課題です。世界中の高等教育機関のデータからわかるように、研究・教育機関のトップ校というだけでは優秀な学生を呼び込めません。卒業生会のネットワーク、大学のメッセージ、イメージ、ブランド力、学生生活、卒業後の進路や生涯学習の重要性などを理解してもらえるよう努めていくつもりです。現在検討中ですが、学内の様々な部局とGAOが協力し、優秀な学生を獲得するための方策の必要性を示す戦略企画を今後提案するつもりです。

第4回サイエンス・インカレで 大阪大学から全国最多6名が受賞

2月28日(土)、3月1日(日)、神戸国際会議場で文部科学省主催の第4回サイエンス・インカレが開催されました。ファイナリストに選ばれた口頭発表部門48組、ポスター発表部門124組のうち、本学からはそれぞれ9名と8名が出場し、最多の6名の学生が表彰されました。

サイエンス・インカレは、全国の理系学生に自主研究を発表する場を設けることにより、理系学生の能力・研究意欲を高めるとともに、課題設定能力、課題探求能力、プレゼンテーション能力等を備えた創造性豊かな科学技術人材を育成することを目的として開催されているものです。

大阪大学では、今年度から学部生を対象にした自主研究奨励事業を始めるなど、今後も早くから研究に取組もうとするやる気のある学生を応援していきます。



(写真提供：サイエンス・インカレ事務局)

独立行政法人科学技術振興機構理事長賞	
理学部物理学科 3年 岩切秀一さん	「The Noise Knows ～核スピン偏極ゆらぎを利用した「ゆらぎの定理」の検証～」
サイエンス・インカレ奨励表彰	
工学部地球総合工学科 4年 湊文博さん	「強震動と津波避難に関するハイブリッド評価 ー南海トラフ巨大地震による和歌山県串本町を例としてー」
基礎工学部システム科学科 4年 浅山弘孝さん	「動的プロジェクションマッピングを前提とした3Dプリンタ出力へのマーカ埋め込み」

各協力企業・団体賞

NJS賞(日本上下水道設計株式会社)	
工学部地球総合工学科 3年 臼井彰宏さん	「避難対象者が必要とするソフト防災対策の優先度の分析 ー親水公園都賀川を例に水難事故のさらなる減少を目指してー」
Future賞(日本曹達株式会社)	
工学部応用自然科学科 4年 三橋由季さん	「環状オリゴ糖による植物油中の有害脂肪酸除去の実現」
ワイエムシィ賞(株式会社ワイエムシィ)	
理学部化学科 4年 佐原慶亮さん	「化学実験を用いたキラルな物質間の相互作用の探求」

大阪大学所蔵の野中古墳出土品が重要文化財へ

3月13日(金)、国の文化審議会が開催され、大阪大学が所有する野中古墳出土品について重要文化財(美術工芸品)への指定が文部科学大臣に答申されました。本学における重要文化財の指定は、適塾(旧緒方洪庵住宅、1964年指定(建造物))について2件目で、美術工芸品としては初めてとなります。

大阪府藤井寺市にある野中古墳は、大阪平野南東部の古市古墳群に含まれる5世紀前半の方墳(1辺37m)で、2010年に国の「世界遺産暫定リスト」に記載された百舌鳥・古市古墳群の「構成資産」の一つにもなっています。

詳しくは、大阪大学ホームページをご覧ください。



外国人留学生修了パーティを開催

3月16日(月)、外国人留学生修了パーティを千里阪急ホテルで開催しました。

このパーティは、平成27年3月に本学を修了(卒業)予定の外国人留学生とその家族を平野俊夫総長が招待し、祝賀・懇談の場とするもので、毎年開催しています。

当日は、本学教職員をはじめ、修了者のホストファミリーやボランティア、家主の方々も含めて約240名が参加し、参加者は写真撮影や団らんを楽しむなど、終始和やかなひとときを過ごしていました。

また、参加した留学生からは、「阪大の学生はフレンドリーだった」「留学生相談室がとても親切で安心して学生生活を送ることができた」「博士後期課程に進学しても頑張りたい」などの声が聞かれました。



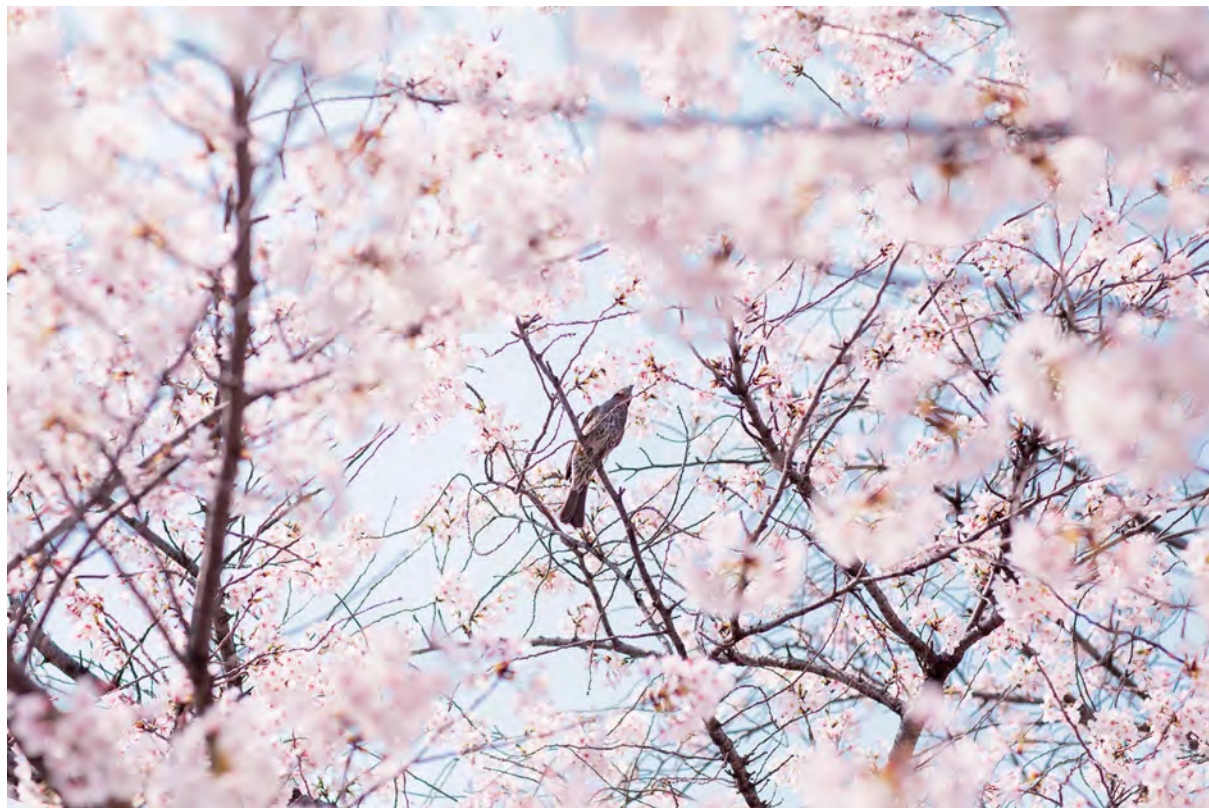
中之島センターに看板を設置



マチカネワニ化石の銘板

昨年、国の登録文化財(天然記念物)に指定されました総合学術博物館所蔵のマチカネワニ化石の銘板が文化庁から交付され、博物館に展示しました。





「桜と鳥」
(豊中キャンパス)

OWL { カテゴリ: 阪大の自然
 キーワード: 桜／花／動物／春／豊中キャンパス

OWL (Osaka University Web Library) とは…
 大阪大学の学内構成員(学生・教職員)が、大阪大学のさまざまな素材を自由にダウンロードし、利用するためのウェブサイトです。最適化された高画質な画像、各種資料やプレゼンに利用できるテンプレートを利用規約を満たす限り自由に利用できます。「阪大百景」は、クリエイティブユニットがクリエイティブ・コモンズライセンスで提供する画像ライブラリで、カテゴリおよびキーワードから写真を選択できます。OWLには「マイハンダイ」からログインのうえご利用ください。 <https://my.osaka-u.ac.jp>



大阪大学未来トーク 2015年度前期



第17回 青柳 正規 文化庁長官

「イタリアでの発掘40年」

4月20日(月) 17:00-18:30
大阪大学会館講堂(豊中キャンパス)



第18回 山中 伸弥 京都大学iPS細胞研究所 所長/教授
ノーベル生理学・医学賞受賞(2012年)

「iPS細胞がひらく新しい医学」

5月18日(月) 17:00-18:30
大阪大学コンベンションセンター(吹田キャンパス) ※銀杏会館でも中継をします。



第19回 永田 和宏 京都産業大学 総合生命科学部 教授
京都大学 名誉教授、歌人

「ことばの力 - 科学と文学のあいだ」

6月15日(月) 17:00-18:30
大阪大学コンベンションセンター



第20回 鈴木 章 北海道大学 名誉教授
ノーベル化学賞受賞(2010年)

「有機ホウ素化合物を用いるクロス・カップリング反応」

7月21日(火) 17:00-18:30
大阪大学会館講堂

メイン会場とは別にサテライト会場を各キャンパスに設け、吹田・豊中・箕面・中之島・東京オフィスのどの地域でも未来トークにご参加いただけます。

吹田キャンパス: 銀杏会館 三和ホール
 豊中キャンパス: 大阪大学会館 3階講堂
 箕面キャンパス: プレゼンテーションルーム(研究講義棟B棟1階)
 中之島センター: 10階 佐治敬三メモリアルホール

◇申込不要・先着順・参加費無料
 ◇お問合せ先
 大阪大学未来戦略支援事務室総務係
 Email: mirai-talk@iai.osaka-u.ac.jp

大阪大学未来トーク 2015 検索

「環太平洋大学協会(APRU)第19回年次学長会議」を大阪大学主催で開催

大阪大学が加盟する環太平洋大学協会(APRU)の第19回年次学長会議を、本学がホスト校として開催します。日本で開催するのは、2008年の慶応義塾大学に続いて2度目となります。

APRU やプログラム、本会議の詳細については大阪大学ホームページをご覧ください。

【会 期】2015年6月28日(日)～6月30日(火)
 【会 場】大阪大学吹田キャンパス、ヒルトン大阪、他
 【対 象】APRU 加盟大学(16ヶ国・地域の45大学)の学長及び随行者
 【お問合せ】大阪大学総務企画部国際交流課 TEL: 06-6879-7163



第18回開催時の集合写真
 (写真提供: オーストラリア国立大学)

【阪大トリビア】「適塾」の名の由来はどこから来たものでしょうか？(答えは47ページ)
 ①地名 ②人名 ③書物名 ④号名

いちよう祭 2015

いちよう祭は、大阪大学の創立記念日（5月1日）を祝して、学生や教職員、保護者の皆さんと一緒に、全学をあげて新入生を歓迎する大阪大学の春の恒例イベントです。

開催期間中には、学生の課外研究奨励事業の成果発表会やホームカミングデイ、春のオープンキャンパスなど様々な催しが企画されています。

皆さまのご来場をお待ちしております。

日時：5月1日（金）、2日（土）

会場：豊中キャンパス、吹田キャンパス

※ご来場の際は、公共交通機関をご利用下さい。なお、吹田キャンパスと豊中キャンパス間の移動に

ついては、連絡バスを運行しておりますのでご利用ください。

問い合わせ先：総務企画部総務課総務係（TEL：06-6879-7014）



第10回ホームカミングデイ

年に一度、大阪大学・大阪外国語大学の卒業・修了生、両大学の教職員OB・OGのみなさまが一堂に会するホームカミングデイ。第10回を記念して、在学生や保護者の皆様にもご参加いただける、よりオープンな「阪大ファミリーの会」として開催します。

今年の「卒業生による講演」は、「ちちんぷいぷい」や「VOICE」などでおなじみ、毎日放送アナウンサーの西靖さん（法学部卒）です。司会の関西テレビ放送アナウンサー・関純子さん（人間科学部卒）とのトークセッションも注目です。



- ①講演会等（10：00～11：30）（大阪大学会館講堂）
 - ◆卒業生による講演
「阪大の日々、そしてOBとして」 毎日放送アナウンサー 西 靖さん
司会：関 純子さん 関西テレビ放送アナウンサー
 - ◆トークセッション（アナウンサー両氏による対談）
「テレビ・ラジオの現場よもやま話」 西靖さん・関純子さん
 - ◆大阪大学応援団による演舞
- ②懇談会（12：00～13：30）（カフェ&レストラン「宙（そら）」）
 - ※参加費1,000円
 - ※未成年者の飲酒はできません。
- ③阪大若手会企画交流会（14：00～16：30）
現役、OB・OGどなたでも参加できます。

171の研究室が見学できる！「春のオープンキャンパス」

春のオープンキャンパスでは、171もの研究室が見学できます。阪大オリジナルグッズと交換できる研究室スタンプラリーをあわせて開催。大学説明会、現役大学生による受験生相談コーナーもあります。素敵な商品をご用意して、高校生の皆様をお待ちしています。

【日時】5月2日（土） 10：00～16：00

①10：00 ②13：00 ③15：00（各回同内容）

【会場】大阪大学 文理融合型研究棟1F／4F／7F（豊中キャンパス）

【お問合せ先】大阪大学 未来戦略支援事務局 岸本 TEL：06-6210-8243



サイエンスカフェ・オンザエッジ 腸管免疫－おなかの免疫、最新情報－

◆話題提供者：竹田 潔 / 医学系研究科・免疫学フロンティア研究センター 教授

◆ファシリテーター（科学を伝える人）：津村 明子 / 免疫学フロンティア研究センター

日時：2015年5月2日（土）14：00 から 15：30

主催：大阪大学 免疫学フロンティア研究センター（IFReC）

場所：テクノアライアンス棟 1階 アライアンスホール

参加登録：不要

◎お問合せは、免疫学フロンティア研究センター企画室（ifreckikaku@gmail.com）宛てに、件名を「いちよう祭サイエンスカフェ」と明記のうえ、ご連絡ください。



Handai-Asahi 中之島塾（4～6月期）

開催日時：4月11日（土）～6月20日（土）

開催場所：中之島センター

講演者等：①坂元 一哉（法学研究科教授）
②谷口真由美（大阪大学非常勤講師）
③蜂矢 真郷（名誉教授）
④近藤 誠（医学系研究科助教）
⑤高島 幸次（CSCD 招へい教授）

参加方法：朝日カルチャーセンター中之島教室のウェブページ
または電話（06-6222-5224）により申込（随時受付）。

参加費用：受講料1,620円

朝日カルチャーセンター入会金は不要。

問合せ先：21世紀懐徳堂 TEL：06-6850-6443



ラボカフェスペシャル・ミュージックカフェ 「チチ松村の『バンジョー、あとの祭り……』」

ゲスト：チチ松村（ゴンチチ、ギタリスト）、
渡辺三郎（月刊ブルーグラス ジャーナル
『ムーンシャイナー』編集長）ほか、
各バンジョー奏法達人

カフェマスター：久保田テツ（大阪大学 CSCD 教員）

日時：4月26日（日）15：00～17：00

会場：アートエリア B1（京阪電中之島線・
なにわ橋駅地下1階コンコース）

定員：30名程度（当日先着順・入退場自由）

問合せ先：コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）
zenkyo-insoumu@office.osaka-u.ac.jp



大阪大学×大阪ガス「アカデミックッキング」

“食”や“料理”という身近な切り口から、学問的なものの見方・考え方を身につける教養講座です。専門的で難解な大学の先生の研究でも、どこかで普段のわたしたちの生活とつながっている……。そんな楽しい実感から、日常生活にちょっと変化をもたらしアカデミックな思考回路が生まれます。あなたと一緒に、ガス火で作る料理から新たな学びのとびらを開いてみませんか？



① vol.58 「ようこそ!タンパク質ワンダーランド」

開催日時：5月2日（土）10：30～17：00

講師：栗栖源嗣（蛋白質研究所教授）



② vol.59 「ホットドッグ学概論～羊腸に詰められた挽肉と文化～」

開催日時：5月22日（金）18：30～21：00

講師：小倉明彦（生命機能研究科教授）



③ vol.60 「意外と身近な漢方医学～漢方で、心も体もすっきりと!」

開催日時：6月25日（木）18：30～21：00

講師：萩原圭祐（医学系研究科准教授）

開催場所：大阪ガスクッキングスクール千里（せんちゅうPAL1F）（①のみハグミュージアム4F）

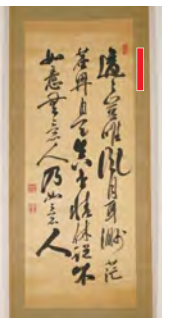
参加方法：大阪ガスクッキングスクールウェブページまたは電話により申込（5/1-24で③のみ受付中）。定員28名。15歳以上どなたでも参加可（申込多数の場合は抽選）、受講料2,100円。

問合せ先：申込は、大阪ガスクッキングスクール千里 TEL：06-6871-8561

講座内容についての問合せは、21世紀懐徳堂 TEL：06-6850-6443

（45ページの【阪大トリビア】の答え）

④ 適塾は「適々斎塾」とも呼ばれ、適々斎は緒方洪庵の号のひとつ。洪庵は和歌のたしなみをもち、多くの和歌をよみ短冊を書いている。適々とは、「自分の心に適するところを適としてたのしむ」という意で、温厚誠実な医師としてだけでなく、風流を解する一面も持ち合わせていた人であった。（梅溪昇「緒方洪庵と適塾」より）
※右写真傍線は「適々」



福澤諭吉の軸（適塾記念センター所蔵）

坂口志文特別教授 (WPI-IFReC) が「ガードナー国際賞」を受賞



3月24日中之島センターでの記者会見

免疫学フロンティア研究センター (WPI-IFReC) の坂口志文教授 (大阪大学特別教授) のカナダ「ガードナー国際賞」の受賞が決定しました。ガードナー国際賞は、カナダのガードナー財団より、「医学に対して顕著な発見や貢献を行った者」に与えられる賞で、世界で最も権威ある科学賞の一つです。

過去、日本人では、石坂公成 夫妻 (免疫学)、利根川進 (免疫学)、山中伸弥 (再生医学)、森和俊 (細胞生物学) の各氏が受賞しています。

大阪大学からは、2011年に現WPI-IFReC拠点長の審良静男特別教授 (免疫学) が受賞しており、坂口特別教授は2人目となります。

【受賞理由】

“for his discovery of regulatory T cells, characterization of their role in immunity and application to the treatment of autoimmune diseases and cancer”

「制御性T細胞の発見と免疫における役割の解明、ならびに自己免疫疾患と癌の治療への応用」

※大阪大学ニューズレター No.62 (2013.12) で、坂口特別教授の研究を紹介しています。(P.7-8)

なお、授賞式は今年10月にカナダ・トロントで行われる予定です。また、受賞者には、ガードナー財団より10万カナドルが贈られるとともに、10月26～30日に「ガードナー週間」が設けられ、受賞者の講演会がカナダ各地で開かれる予定です。

坂口志文特別教授の受賞の喜び

長年の仕事に対して国際的に認められて大変うれしい。この分野 (の研究) はたくさんの人が (研究を) やってきたわけではなく、ここ15年くらいでいろんな研究者がやり始めてきた。その代表として賞をもらったと思っています。研究は何年やっても面白いものが出てくる。研究を長年持続できたことは非常にラッキーだと思っています。結果として賞をもらったことでこの分野が注目されることも喜ばしい。人への貢献、特にがんや難治疾患の治療にこの研究を活かすことが重要と改めて認識しています。将来根治がどこまで可能かと期待をもちながら研究を続けていきたい。